

第2回 南部町地域のあり方検討委員会次第

日 時 令和7年10月27日(月)

15:00～17:00

場 所 キナルなんぶ多目的ルーム

1 開会

2 南部町長 あいさつ

3 南部町地域づくりアドバイザーあいさつ

4 議事

(1) 事務局から第1回ふりかえり

(2) 活動紹介

- ・南部町総合型スポーツクラブ
- ・なんぶ里山デザイン機構
- ・青年海外協力協会 JOCA 南部
- ・南部町の農業政策について

(3) 地域の魅力と可能性についてグループ協議

(4) 全体討議

5 連絡

6 閉会

【配布資料】

資料1・・・地域のあり方検討概要

資料2・・・スポnet なんぶの活動について

資料3・・・なんぶ里山デザイン機構「法人事業についてのご紹介」

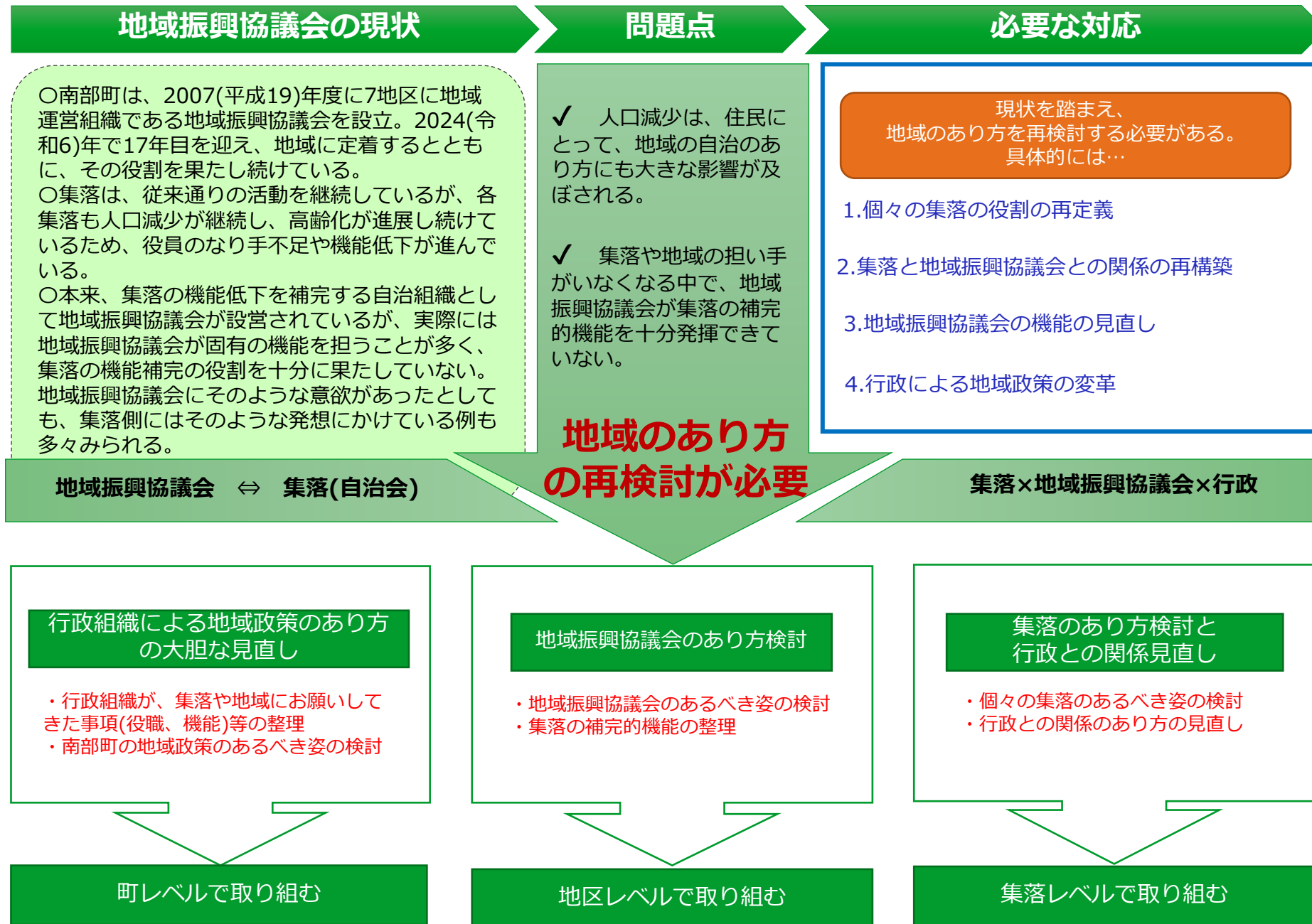
資料4・・・南部町の農業政策について

資料5・・・南部町総合計画後期基本計画_抜粋

資料6・・・JOCA 南部の取り組み

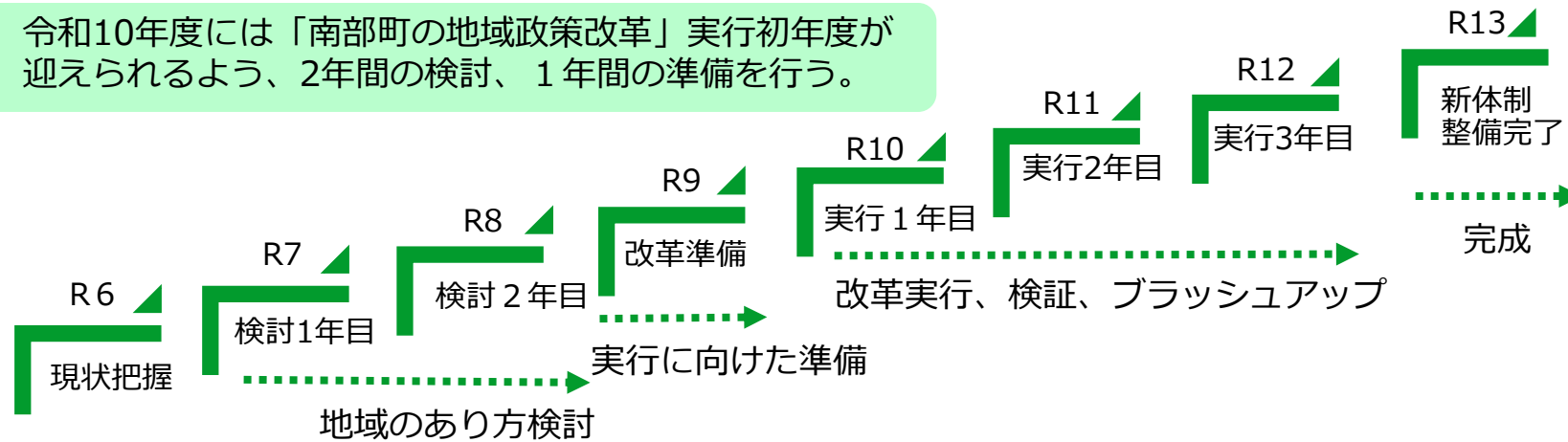
SWOT 分析シート

南部町における地域のあり方検討概要



地域のあり方検討スケジュール（検討中）

令和10年度には「南部町の地域政策改革」実行初年度が迎えられるよう、2年間の検討、1年間の準備を行う。



	取組内容	各年度の取組
2031(R13)年度	新体制整備完了 まち全体が新しい地域のしくみで動き出す	完成
2030(R12)年度	実行3年目【2地区程度】	
2029(R11)年度	実行2年目【3地区程度】	
2028(R10)年度	実行1年目【2地区程度】	実行
2027(R9)年度	地域のあり方改革準備 地域戦略会議(有識者会議)	
2026(R8)年度	地域のあり方検討	あり方検討
2025(R7)年度	地域のあり方検討準備、検討開始	
2024(R6)年度	現状把握(共同研究による実態調査)	

※検討を行う中で、必要に応じて取り組む内容を見直していく。

スポnetなんぶの活動について

特定非営利活動法人
南部町総合型地域スポーツクラブ



クラブ概要

沿革

平成20年	8月	設立検討会発足
平成22年	4月	準備委員会発足
平成24年1	1月	南部町総合型地域スポーツクラブ設立
平成25年	2月	愛称を公募「スポnetなんぶ」に決定
	4月	任意団体として活動をスタート
	12月	NPO法人化
平成26年	4月	NPO法人として本格的に活動スタート

会員数

平成26年	利用会員	785名	(ジュニア会員532名)	大人会員253名)
令和6年	利用会員	1122名	(ジュニア会員723名)	大人会員499名)

スタッフ

常勤職員 13名 パート職員23名 計36名

拠点施設

南部町総合福祉センターしあわせ、いこい荘
南部町民体育館、あいみドーム、南部町民運動場・野球場



理念

さまざまな世代がスポーツを通じてココロもカラダも健康に
いつまでも地域で元気に暮らせるような活力あるまちづくりを推進します

スローガン

- スポーツでつなぐ とびきりの笑顔の輪
- コウキシンヲ ユサブレ

事業方針

楽しく安全で効果的なプログラム提供により、さまざまな世代の心身の健康づくりをサポートします。

“スポーツ”と“健康”に関する「ハード」と「ソフト」の調和・融合を図り、生涯スポーツ人口の拡大を目指します。使命と責任感を持ったスタッフの育成を行い、豊富な知識・技術で迅速・的確なサービス提供を行います。人と人との「出会い」をプロデュースし、笑顔の連鎖を創出していきます。地域から信頼され愛されるクラブづくりを目指します。

活動内容

種類	内容	備考
スポーツ教室等開催事業	スイミング、体操、ダンス、水中運動、エアロビクス、ヨガなど 78コマ	延べ32,919名利用
生涯スポーツの普及 健康維持増進事業	ジュニアチーム、ジュニアユース（部活動） マスターズクラブ 100歳体操、指導者研修 生活習慣病予防事業 子どもの体力向上、障がい者スポーツ普及	<ul style="list-style-type: none"> ●ジュニアチーム8種目 (サッカー・野球・ミニバス・バレー・テニス・ソフトボール・剣道・陸上) ●ジュニアユース・完全移行2 (サッカー・剣道) ・移行準備3 (軟式野球・テニス・バスケット) ●マスターズクラブ11種目 (サッカー・野球・陸上・バスケット・ゴルフ・バレー・ソフト・バドミントン・ゲートボール・GG・ハウスボール) ●100歳体操 55ヶ所実施
イベント事業	スポーツ系、季節系、緑水湖マラソン大会 かぞくの日、こどもしごと講座	
施設管理運営事業	総合福祉センターしあわせ、いこい荘 町民体育館・あいみドーム・町民運動場・野球場	指定管理6施設150,000人利用

スポーツ等教室開催事業



生涯スポーツの普及、健康維持・増進事業



施設等管理運営事業

総合福祉センターしあわせ

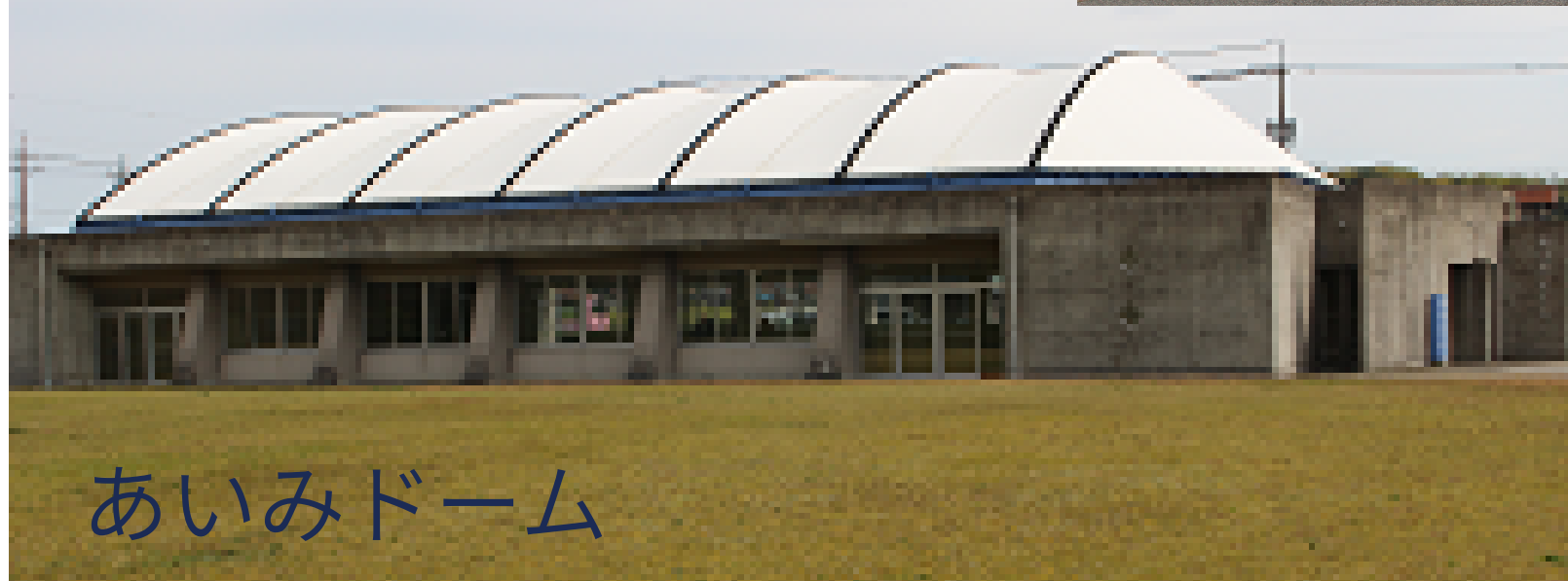


総合福祉センターいこい荘

町民体育館



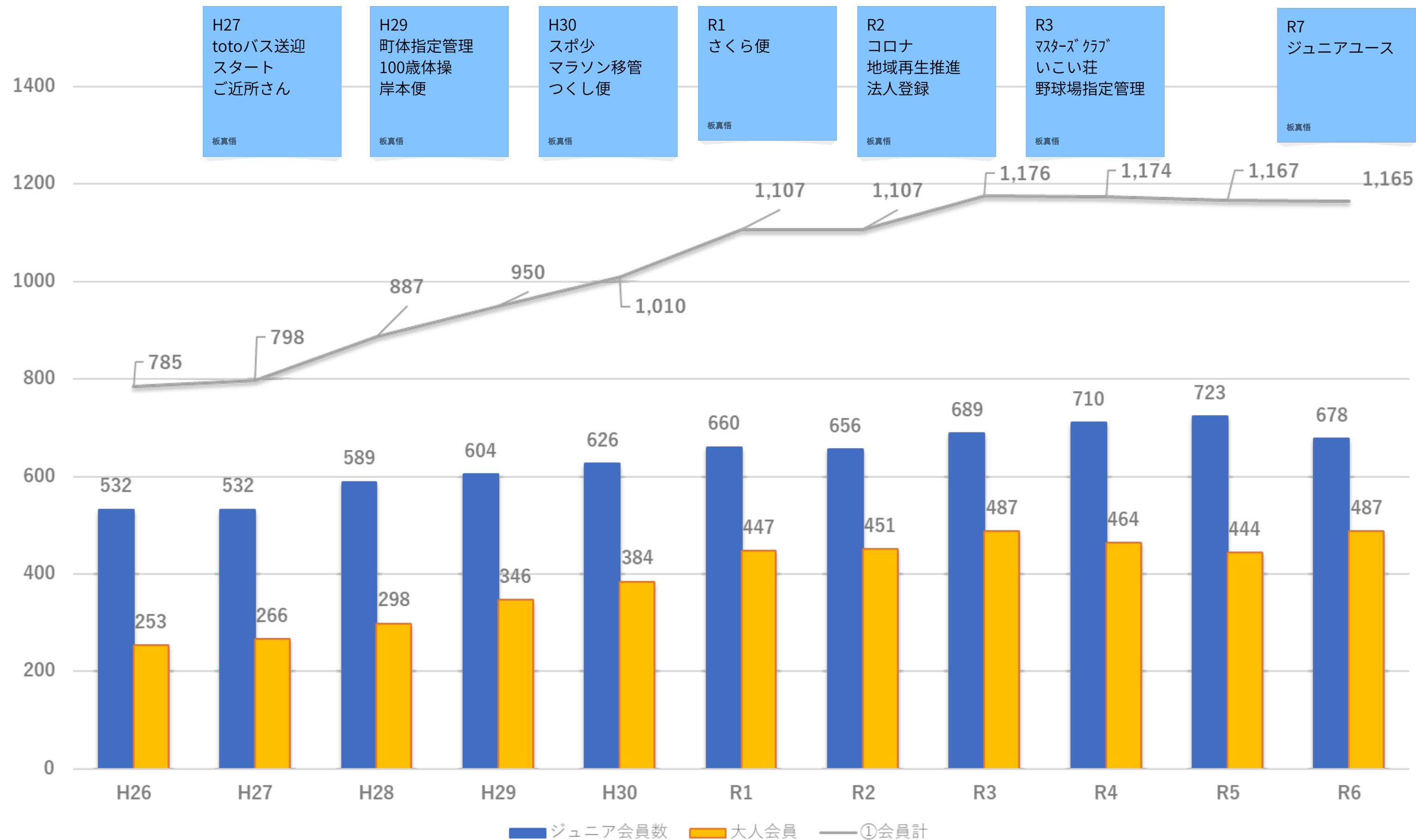
あいみドーム



町民運動場・野球場

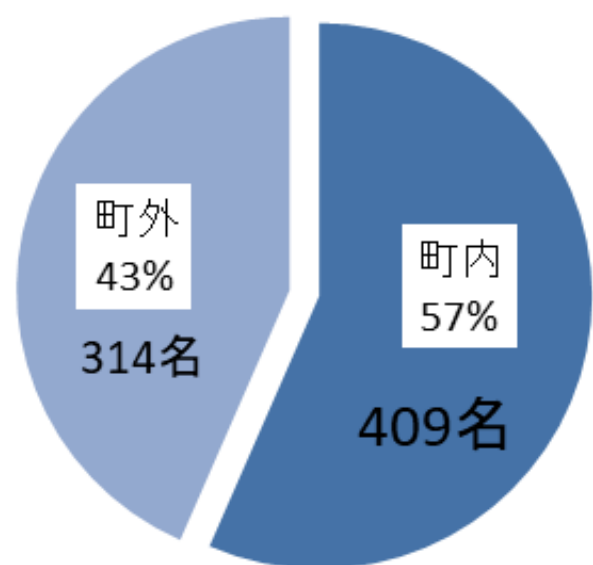


利用会員推移

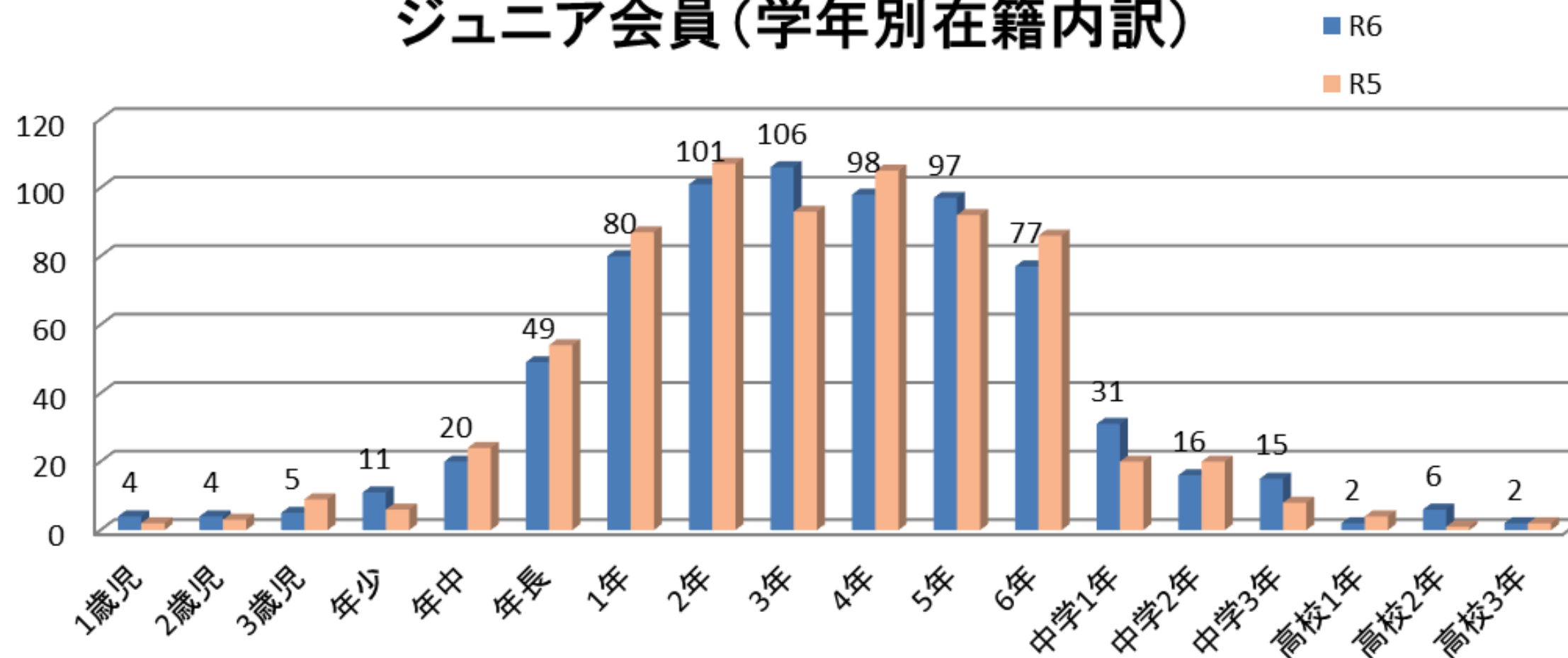


会員内訳

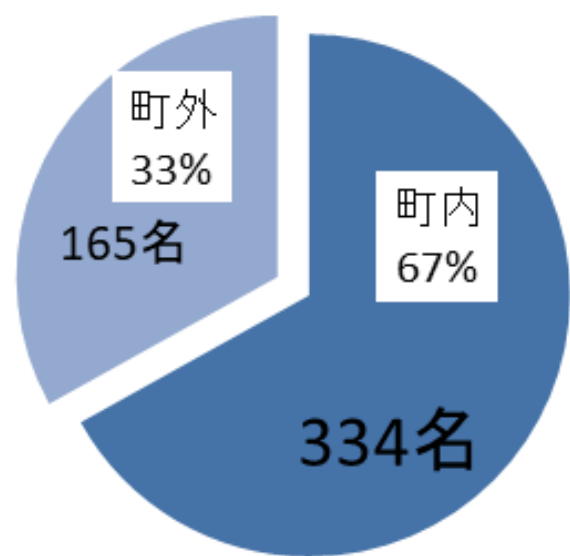
ジュニア会員



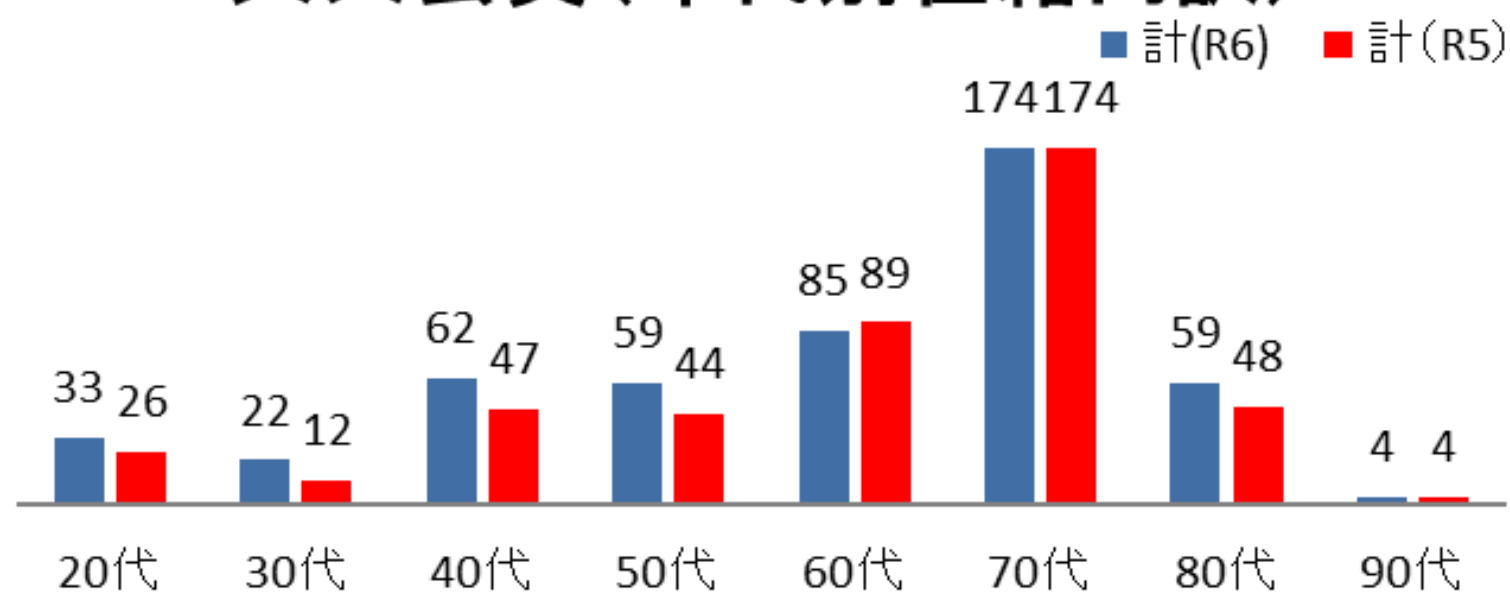
ジュニア会員(学年別在籍内訳)



大人会員



大人会員(年代別在籍内訳)



1 地域スポーツでまちづくりに貢献

もっと誰もがスポーツに参加しやすい環境づくりを

地域の人材を活かした運営

持続可能なクラブづくり

総合福祉センターしあわせをクラブの拠点に誰もが気軽に安心して立ち寄れるプールやトレーニングジムを中心に様々なプログラムを拡充

2 これまでのあゆみ

- 2013 クラブ設立
- 2014 NPO法人化/総合福祉センターしあわせ指定管理
- 2017 南部町民体育館指定管理/マイクロバス購入
介護予防事業（100歳体操）生活習慣病予防（コツチャレ）
健康づくりコーディネーター採用
- 2018 スポーツ少年団・緑水湖健康マラソン 事務局移管
- 2020 地域再生推進法人指定
- 2021 体育協会移管/総合福祉センターいこい荘・町民グラウンド・野球場指定管理
こどものしごと講座/地域おこし協力隊
- 2022 会員システム導入
- 2024 部活動の一部地域移行スタート
- 2025 現在に至る

3 サービスの向上に向けて（スタッフの育成）

次世代の活躍に向けて

なにごととも**自分ごと**に

自分事として仕事に向かい、使命感と誇りを持ったスタッフに育てもらうために

スポーツの魅力と可能性

スポーツには「人を笑顔にする力」「人を元気にする力」「人をつなぐ力」そして「人を育む力」がある

チャレンジすること

若者の視点がクラブを活性化してくれます。
気軽にチャレンジできる環境を整える

仕事への誇りとやりがい

様々な世代の人生に携わることができる職業
専門性を高めやりがいとプライドを持てるスタッフの育成

自分も楽しい

自分が楽しむことで、会員さんや地域にスポーツの魅力が付加価値を持って発信できる

1 個々の経験が積み重なる

- 計画的な人材育成につながる
- 個々の持ち味を活かした担当業務

2 会員・利用者も安心して通える

- 会員、利用者との信頼関係の構築
- クラブに対する安心感
- 要望や意見の伝えやすさ

3 サービス・指導力の強化

- 内部研修や資格取得の時間の確保
- 段階的な研修を通じた指導の幅や指導力のアップ
- 受け持ち業務の多様性

4 組織の強化

- 組織体制が厚くなる
- 新規事業や新規サービスの開発

4 人の循環

法人化10年が経過

当時10歳だった子が20歳に…
クラブにスタッフとして
還って来てくれ始めました。

今後もそういう方々が活動に参加し
たり、運営協力してくれる人材とな
ってくれることに期待!



一緒に
スポーツで南部町を
盛り上げていく



スタッフ

クラブで働きたい

職業としての選択肢
一緒に働ける喜び

運営協力

会員

親になり子を預ける

会員として通ってくれて
いた子が親となり
自分たちの子をクラブに
通わせてくれる



NPO法人

なんぶ里山デザイン機構

「法人事業について」のご紹介

2014.3
~2015.8

南部町版総合戦略を策定するにあたり

なんぶ創生100人委員会を設置

構成：町内外で活躍する各分野の専門家や団体の代表・公募委員
計100人と役場の有志職員25人（会長 毎川秀巳）

最終提案時の前南部町長の言葉

「総合戦略で提案のあった施策のうち、民間で行ったほうが効果的な事業について、**まちづくり会社**を設立し、**住民の手で実現**してほしい。」



なんぶ創生100人委員会の様子

2015.10
~2016.3

まちづくり会社設立準備会での事業内容等の検討

“まちづくり会社”で取り組むこととした事業

- ・ 生涯活躍のまちの推進
- ・ 南部町版ハローワーク
- ・ ふるさと納税特産品開発
- ・ 里山デザイン大学



なんぶ里山デザイン機構設立総会(2015.12.21)

法人理念

豊かな里山をデザインし 豊かなまちづくりに貢献します

恵まれた里山の魅力を広く発信すると同時にその環境を活かした仕組みづくりを行うことによって、人々の興味や関心を高め「交流人口の増加」や「生涯活躍するひとづくり」に取り組みます。



NPO法人 なんぶ里山デザイン機構 スタートしました!

豊かな里山をデザインし、豊かなまちづくりに貢献します。
南部町は平成27年12月に町全域が環境省の生物多様性保全上重要な「里地里山」に選定されました。
こうした恵まれた里山の魅力を広く発信すると同時に、その環境を活かした仕組みづくりを行うことによって、人々の興味や関心を高め「交流人口の増加」や「生涯活躍のまちづくり」に取り組みます。

取り組む4つの主な事業

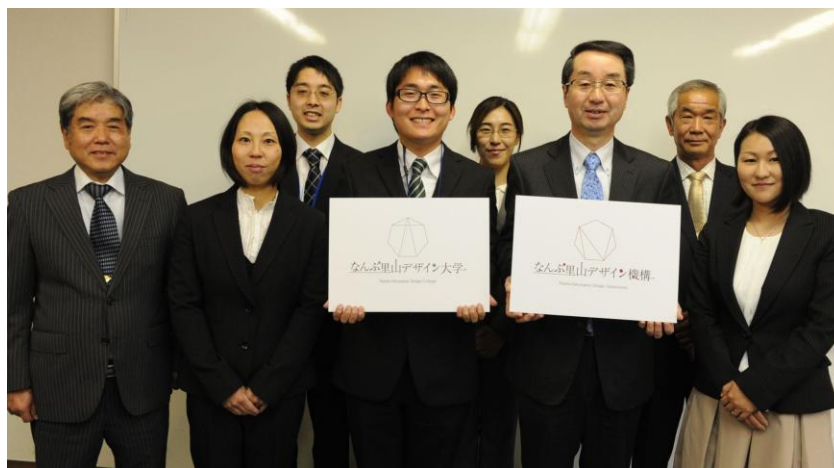
移住定住の促進 各地域振興委員会と連携して、地域ニーズに合う移住者を募集し、主に空家を活用しての移住定住化を図ります。	職業紹介 移住者及び町民の皆さんを対象に、ハローワークと連携し無料の職業紹介をします。	がんばれ ふるさと寄付 返礼品として、これまでの町内産品に加え、特産品の海苔やパッケージのデザイン化等を進めます。またネットを使ったPRにも取り組めます。	里山デザイン大学 ※文部科学省の認められた大学ではありません。 「里山デザイン」をコンセプトに里山での暮らしや遊びを学ぶ各種講座や自然環境・デザイン等の研究を行います。
---	---	---	---

この他に、コミュニティスペースづくりや、まちカフェ等の運営も予定しています。

賛助会員 募集中

私達の活動に賛同し協力頂ける皆さんを募ります。
年間一口個人 1,000円 法人 5,000円 (いずれも何口でも可)

お問い合わせ先
特定非営利活動法人 なんぶ里山デザイン機構
鳥取県西伯郡南部町浅井 938 番地 南部町総合福祉センター1階内 TEL: 0859-21-1595 FAX: 0859-21-1596



商号：特定非営利活動法人
なんぶ里山デザイン機構

設立日：2016年3月8日

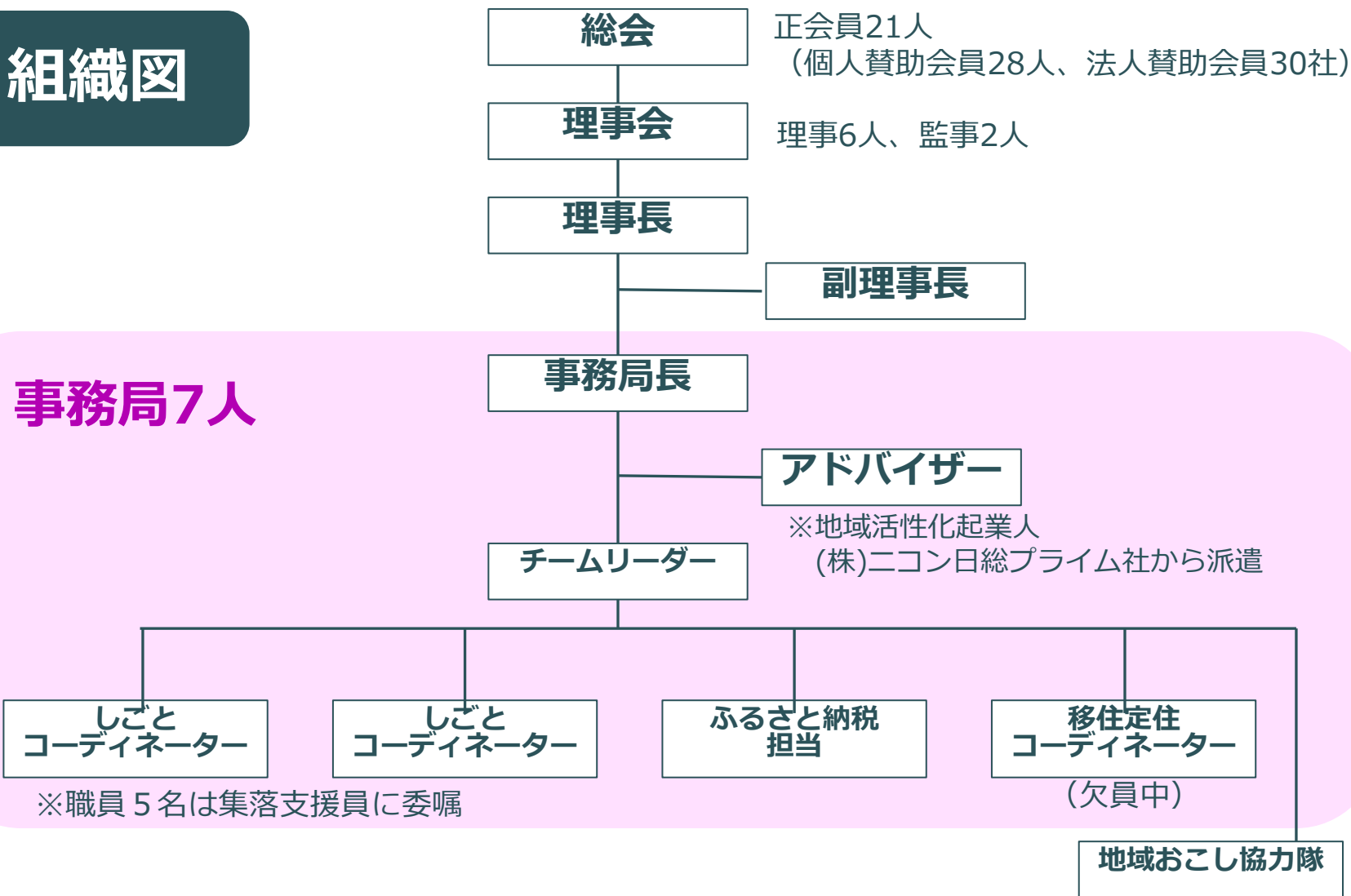
所在地：鳥取県西伯郡南部町浅井938番地

代表者：理事長 板持照明（二代目）

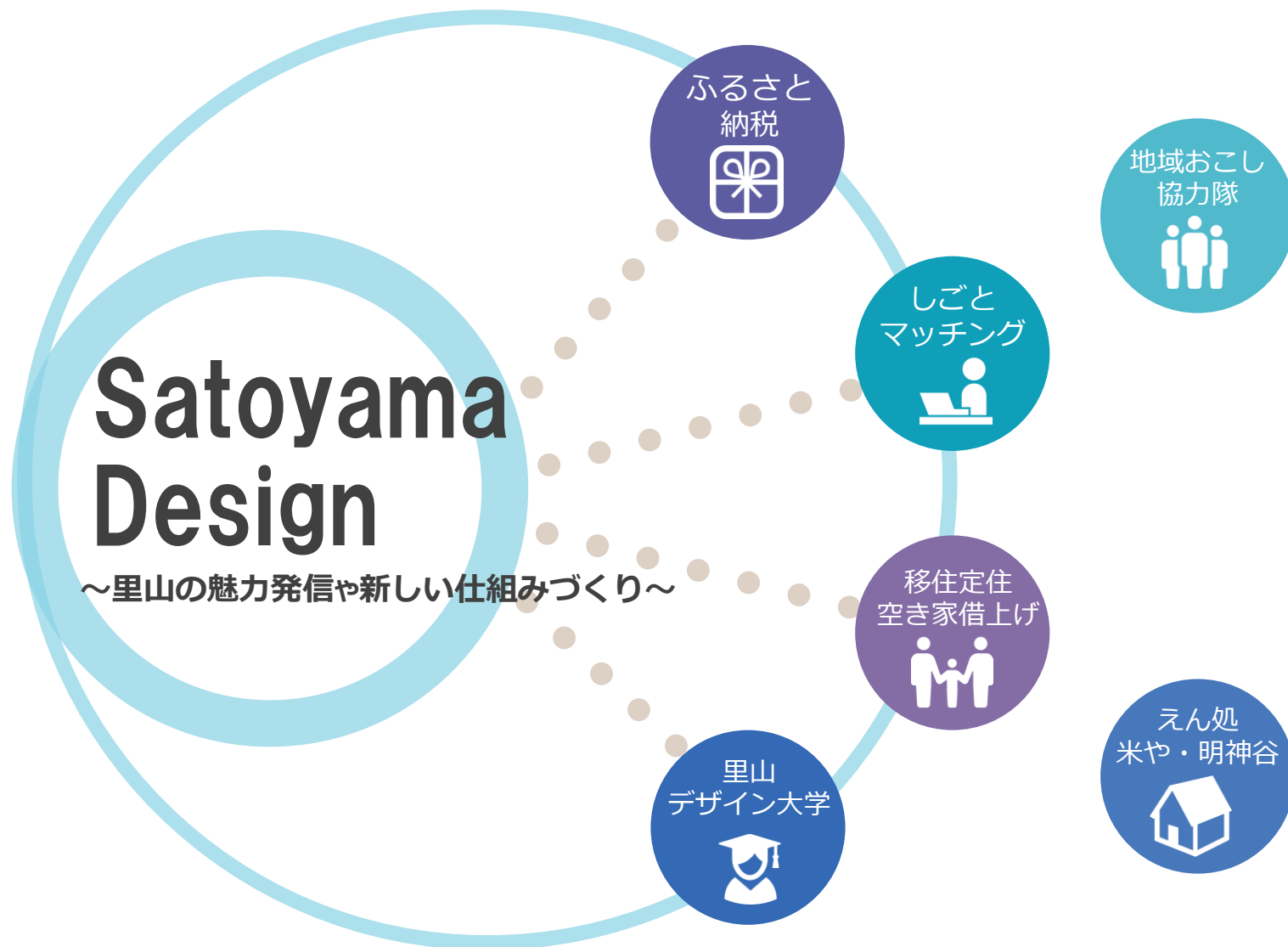
従業員数：5名（正職員）

売上：76,382千円（2025年3月期）

組織図



私たちのMissionと取組内容



Mission: 交流人口の増加、生涯活躍するひとづくり

空き家活用・移住定住



42戸の空き家を改修し、移住者等に
賃貸住宅等として契約中
(うち未入居5戸)
現在**112名**の方が入居中



なんぶ里山デザイン機構が空き家を所有者から借り上げ、水回り等のリフォーム

入居希望の方は、必ず自治会長等と面談し区費や集落行事等の説明を受ける。
そして**自治会加入が入居の条件**となる。

借上物件の状況

2025.8現在

管理件数・・・42件

活用中・・・37件

(内訳)

一般住宅・・・34件

店舗・・・・・・・・2件

交流拠点・・・1件 (えん処明神谷)

未活用・・・5件

(内訳)

入居者募集中・・・・・・・・2件

今年度返却予定・・・2件

活用方法検討中・・・1件

しごととマッチング

2016年～

ハローワークと連携した
無料職業紹介



2022年～

地域の働く人と仕事を発掘してつなぐ
しごとコンビニ



+

【第1期生涯活躍のまち基本計画】
まちづくり会社に職のコーディネーター
を設置する

- ・厚生労働省の認可を受け、町民もしくは移住希望者に対する職業紹介の実施
- ・乳幼児健診の会場での職業相談コーナーの設置など

【第2期生涯活躍のまち基本計画】
民間企業や地域との連携を通じて、生涯活躍のための「しごとづくり」を実現するため、子育て中の女性や中高年齢者等が、日常生活の中で空いた時間を活用し、好きな時間にやりたいしごとを、コンビニエンスストアのように選んで行える「しごとコンビニ」事業に取り組む。

ふるさと納税



南部町よりふるさと納税業務の一部を受託
→**オリジナル返礼品の開発**に挑戦中

- 主な業務内容
 - ✓寄附の受付
 - ✓返礼品・寄附証明書の発送
 - ✓返礼品カタログの制作
 - ✓ふるさと納税ポータルサイトの管理
 - ✓クレーム対応
 - ✓**返礼品用米の生産(2025～)**

なんぶ里山デザイン大学



南部町の里山をフィールドに様々な講座を企画実施
→**南部町の魅力発進、交流人口の増加**

- 実施講座 (2024年度)
 - ✓草花を描く食す～線細ペン画～
 - ✓ハチミツ採取体験
 - ✓草木染め講座
 - ✓DIY講座メダカ水槽作り
 - ✓苔玉作り講座
 - ✓つるかご作り講座 等

おうちワンストップサービス

- ・ **南部町空家等管理活用支援法人の指定（R7.4.10）**
- ・ これまでの様々な業者との関係性を活用し、
様々なお家に関する相談にも対応
- ・ 本年度は、南部町の重点施策である**住宅耐震化の推進**
（無料耐震診断の受付サポート等）に注力

若者と連携した交流拠点づくり

(2021.5～2022.12)

2020年に借上げた大型物件の活用方法について、共立女子大学建築・デザイン学科及び南部町青年団に検討を依頼。

2022年12月、学生達と南部町青年団から検討された活用方法・改修案等について提案を受ける。

(提案内容)

- ・ 1 F 交流スペース
- ・ 2 F 単身者・若者向けシェアハウス

□ 2階 3つの個室+共室の改修案

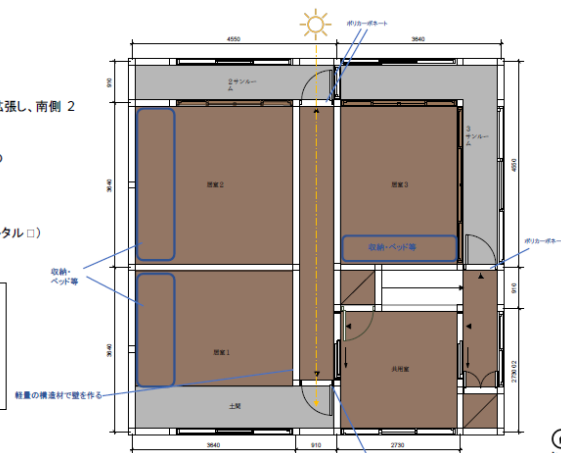
共室は□さなリビングとして集える場所。
個室は床の間をなくして過ごせる場所を拡張し、南側2室には隣の□サニタールームを設けた。

北側の部屋にも□開スペースを作り、個々の領域感、住□感を持たせた。

【内装】

壁: □塗壁
床: 木目調のフローリング / Pタイル(モルタル□)

居室1: 6畳+□間2畳半
居室2: 8畳+サニタールーム2畳半居
室3: 6畳+サニタールーム4畳



※まだお部屋の広さの内装
(壁の塗色等は至極な例ではない)

(2022.12資料) 共立女子大学×青年団
改修案提案書



(2022.9開催) 共立女子大学×青年団
空き家活用方法のアイデア出しWS



若者と連携した交流拠点づくり

(2023.5~2024.3)

若者の提案内容を参考に、改修工事に着手。業者による改修工事に並行して青年団によるDIY改修や、共立女子大学、桃山学院大学の学生によるオリジナル家具の設計・組み立てワークショップを実施。



(2023.8開催) 共立女子大学×青年団
オリジナル家具の設計WS



(2023.9開催) 桃山学院大学×青年団
オリジナル家具の組立WS

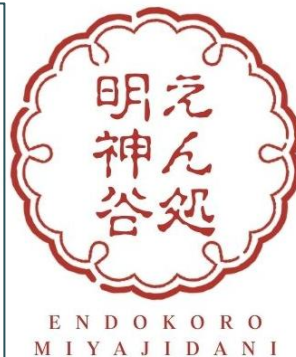
新たな交流拠点 えん処明神谷

(2024.4～)

えん処明神谷開設。
JICA派遣前訓練生の活動拠点や、
明神谷塾の会場、地元住民の交
流の場として稼働中。

(機能)

- 1F 交流スペース (和・洋)
- 2F 短期賃貸住宅





NPO法人

なんぶ里山デザイン機構

Nanbu-Satoyama Design Association

施策2 活力ある産業で輝くまちづくり

基本事業1 魅力ある農林業と商工業の振興

1 めざす姿

- 集落営農、法人など共同化を進めることで地域の農地の保全や産地の維持を図るとともに、次代を担う若者の新規就農を増やすことで持続的な農業をめざします。
- 農産物の加工や六次化のほか食の安全にも取り組み、農産物に付加価値をつけることで、農業者の所得向上をめざします。
- 人工林を中心に適正な間伐等を推進し、林地所有者の意欲向上と林業者の育成を図り、林地の荒廃を防ぎ豊かな里山の保全につなげていきます。
- 森林資源、竹林資源を有効活用し、循環して再利用できるシステムが構築できるよう取り組みを進めます。
- 町内企業が持続的に活動し、地域雇用の場として確保され、安定した所得をうみだすことができることをめざします。町内での起業・創業を促進し、新たな雇用創出が図れるきめ細やかな支援を行います。

2 現状の成果と課題

【成果】

- 平坦地で耕作条件の良い農地においては、集落営農、法人の取り組みが進み、経営の効率化や特産化により所得向上につながってきています。
- 誘致企業への固定資産税の減免や雇用人数に応じた助成を行ったことにより、雇用確保の持続的な活動が行えています。新規に起業したい方への支援制度を拡充したことで、起業意欲を促し新たな事業を展開していき雇用創出につながっています。

【課題】

- 山間地などの耕作条件不利地においては、高齢化と後継者不足が進んでおり、農業従事者の確保が大きな課題となっています。
- 高齢者や女性などが持つ潜在的な労働力の有効活用の検討が必要です。また、起業に取り組む人材の育成が必要です。

3 今後の方向性

- 後継者の就農意欲の確認と数年後に耕作放棄地となる可能性の農地を把握し、農業委員会と連携して集落営農、法人等を全町に広げる取り組みを強化していきます。
- 農業所得向上のため高収益作物の面積拡大や二毛作、有機農法などに取り組む農業者を支援します。
- 農産物の六次化や加工品化、エゴマ油の特産品化を支援し、農産物に付加価値をつける取り組みを進めます。
- 水稻、果樹生産の維持のため後継者確保に努め、新規就農者が参入しやすい環境づくりを進めます。
- 人工林の適正な間伐に取組みやすいような林業の支援策を構築し、町内で循環できるシステムづくりに取り組めます。
- 社会情勢による町内企業等の実情とニーズを把握し、雇用創出と労働力確保に取り組めます。
- 中小企業・小規模事業者の事業継続的発展のために、商工会を中心とする団体と連携し、事業継承・創業支援の強化ができる環境づくりに取り組めます。

鳥取県南部町はこんな町

自然あふれる里山。そして暮らしに便利な恵まれた立地。

豊かな里山里環境

「生物多様性保全上重要な里山里500選」において、南部町は西日本で唯一、町全域が選定されています。

充実した医療福祉環境

総合病院・特別養護老人ホーム・総合福祉センターなどの医療福祉施設が充実しています。

子育てしやすい環境

保育園、小学校の園庭や校庭は全て芝生！見守り活動など地域も子育てを応援しています。子育て支援制度も充実。



あかいいわじんじゃ
赤猪岩神社

大国主(オオクニヌシ)再生神話の舞台とされるのが、鳥取県南部町にある赤猪岩神社です。日本では珍しい「再生・復活」の地とされ、病氣や怪我からの復帰や、仕事・スポーツ・学業など再起・再出発を祈願する方々が訪れます。



きやくじんじゃ
客神社

田園の真ん中にぼつんと立つ神社。通称、ブロックリー神社ともいわれています。四季折々でその容姿も変化していくのでオールシーズンで撮影スポットとして脚光を浴びている穴場スポットです。いわゆる「インスタ映え」間違えなしです。海外のインスタグラマーたちの間でも密かに注目を集めています。



とっとり花回廊

日本最大級の花のテーマパーク。春は園内一円桜とチューリップが咲き誇り、冬の夜は幻想的な光のイルミネーションが現れます。

その他の情報

■子育て情報をひとつにまとめた子育て支援サイト



■里山暮らし応援制度！



■移住・定住のことなら



■観光のことなら



南部町 里山フルーツ 生産者への道

鳥取県南部町
フルーツロード
構想就農

地域サポート計画宣言！



収穫できる里山フルーツ

南部町では、特産品の梨・柿を中心に、いちご、ブルーベリー、ブドウ、イチジクなど果樹栽培が広がって一年を通じてフルーツを提供できる環境ができてきました。



とくに力を
いれています!

とくに力を
いれています!

いちご

柿

梨

ぶどう

イチジク

ブルーベリー

里山フルーツを一緒に作ろう!

里山フルーツとは?

まち全体が環境省の「生物多様性保全上で重要な里地里山」に選定される南部町。この自然豊かな南部町で、一年中楽しめるさまざまなフルーツをまちの魅力として発信していきます。フルーツづくりを通して里山の暮らしを楽しもう!

新規就農者への地域サポート内容

技術、経営、農地の紹介を関係機関できめ細かく支援します。地域の総力をあげて就農を全力サポート!

就農前

- 研修の実施
- 就農計画制作サポート
- 農地・施設・機械のあっせん・営農資金の相談
- 販路確保・販路開拓に向けた支援
- 生活に関わる支援

就農後

- 生産技術・経営力向上のための指導・研修
- 規模拡大に向けた農地・施設・機械のあっせん・営農資金の相談
- 販路確保・販路開拓に向けた支援
- 地元農家や地域住民との交流促進の取組
- 生活に関わる支援

就農までのロードマップ

就農を検討される方は、まず相談。農業体験の提案や、作物に応じて就農までのロードマップなどのアドバイスをを行います。

就農相談

- 情報収集
- 研修の検討・実施
- 就農にむけて農地の準備
- 就農計画の作成
- 販路の検討、販路の確保

師匠研修

- 師匠のもとでマンツーマンの実技指導

実践研修

- 協力果樹園や研修用ハウスを借りて実際の栽培、収穫、販売を行う実践的な研修

就農

- 情報収集
- 移住相談・準備

フルーツ収穫カレンダー

里山フルーツは需要が高く美味しいと評判。中でもいちごは生産期間が長いのも魅力です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
いちご												
柿												
梨												
ぶどう												
イチジク												
ブルーベリー												

REAL VOICE

師匠

いちご農家 / 中村輝仁さん(49歳)さん [南部町在住] [農業歴16年]

1人より2人、2人より4人。どんどん増えて欲しい。
「とっておき」「紅ほっぺ」など4種のいちごを作っていて、どれも量より質で勝負しているのでも味にも品質にも自信を持っています。農業については、聞かれると答えられるのですが自分が当たり前と思っていることが初めての人にはわからないということに初めて気づきました。教えるというより、一緒に育つ感覚ですね。美味しい実を実らせるためのノウハウを、自分の経験を変えて教えていっています。南部町のいちご農家はまだまだ2人しかいないので、若い世代の農家に増えてもらいたいと思います。



Uターン

いちご農家 / 山根宏美さん(46歳) [南部町出身] [農業歴3年]

私の作ったフルーツで南部町を広めたい。
関東でアパレル職に就いていましたが一次産業から携わる仕事がしたくて、思い切ってUターンを決めました。中村さんが作るいちごがものすごく美味しくて、これを作りたい!と思って弟子入りしたんですが、農業の経験は皆無で、何を聞いていいかわからない状態でのスタートでした。でも師匠の中村さんをはじめ町ぐるみでの手厚いサポートがあり、今では独立してもう2年になります。南部町でこんなにフルーツが作られることを私自身が知らなかったの、私の作ったフルーツを通して南部町をたくさんの人に知ってもらいたいですね。



南部町

第2次総合計画

後期基本計画

(令和6年度～令和10年度)

政策1 豊かな里を紡ぐまちづくり

政策2 豊かな里が心育むまちづくり

政策3 豊かな里に調和するまちづくり

政策体系

めざすまちの姿 (将来像)	政 策	施 策	頁	
人と自然が響き合い ともに創る なんぶ暮らし	人とひとが 協働し 人生100年 時代を拓く なんぶ暮らし 発見のまち	町民が主役のまちづくり	1	
		豊かな里を 紡ぐ まちづくり	活力があり、受け継がれる農林業の推進	2
			活力ある産業で輝くまちづくり	3
	認め合い 支え合い ともに 健幸に 生きる なんぶ暮らし 創造のまち	豊かな里が 心育む まちづくり	心豊かな自律した子どもの育成	4
			人権が大黒柱のまちづくり	5
			生涯学習の推進	6
			歴史・文化およびスポーツの振興	7
			こどもが健やかに育つまちづくり	8
			健康づくりの推進	9
			ともに支え合い元気に暮らすまちづくり	10
	豊かな 里地里山を 守り育み 伝える なんぶ暮らし 出会いの まち	豊かな里に 調和する まちづくり	インフラを整え、安心を支える	11
			デジタル技術でより便利な環境づくり	12
			環境にやさしいまちづくり	13
			住み続けたいまちづくり	14
			出会いが広がる観光のまちづくり	15
			自然災害や犯罪などから暮らしを守る	16

まちづくりの大黒柱（基本理念）

共生

協働

環境

南部町地域のあり方検討会（南部町総合計画後期基本計画より）

地域の現状・取り巻く環境	これまでの取組成果	課題・問題	今後の方向性	No.	総合計画における施策	備考
<p>○町内いずれの集落においても、人口減少と少子高齢化が進んでおり、協議会、集落とも、担い手の減少から、今まで行ってきたことを、同じように行うことは難しくなっている一方で、行事等の簡略化、減少等から、地域のつながりはますます希薄になっています。</p> <p>○住民においては、ライフスタイルや人生観、コミュニティの考え方、家族の捉え方、価値観が多様になっており、協議会未加入集落、自治会未組織の住宅団地においても変化はなく、新築アパートや自治会加入しない世帯、自治会役員に参加できない世帯が増えつつあります。</p>	<p>○地域防災の分野など、町民・集落・地域振興協議会・役場で、地域が直面している課題解決に取り組むことができました。</p> <p>○社会の変化に対応し、行政の情報発信の手段として、テノヒラ役場の導入などデジタル化を推進しました。</p>	<p>○町民が望む安心とは何か、町全体や地域振興協議会等で話し合う場がさらに必要です。</p> <p>また、これまでに話し合った結果、明確になった公共の課題に対して、誰が・どう取り組んでいるのか、このままの体制で対応できるのか、町民との対話の場もさらに必要です。</p> <p>○広報誌をはじめSNS等様々な媒体を活用した情報発信は行っていますが、町民にとって何が必要な情報かを十分に把握できていません。</p>	<p>○社会や生活様式の変化を踏まえ、町民が安心して暮らせるように、町民自身が主体的に、地域振興協議会や集落の方々が協働で行う地域づくりを進めます。</p> <p>○町民に必要な情報を把握し、対象にあわせて適切な情報を発信・提供します。</p>	1	町民が主役のまちづくり	
<p>○人口減少や高齢化によって農地や森林保全の担い手が著しく減少しています。</p> <p>○農産物の付加価値が低いと、より効率的な生産が必要となっています。</p> <p>○広葉樹、雑木の活用が減ったため、荒廃した山林が増加しています。</p> <p>○間伐の適齢期を過ぎた人工林が多く、生育に悪影響も出ています。竹林に入る機会が減っており、放置された竹林の密集化と拡大化が進んでいます。</p>	<p>○生産基盤強化と農林地の集積の取組により、一定の生産効率化が図られています。</p> <p>○中山間直接支払いや森林計画などを通じて地域での農地及び森林の維持活動が推進されています。</p> <p>○複数の作目で共同出荷が行われており、産地化が進められています。加えて、加工業者への原材料供給により付加価値の向上が図られています。</p> <p>○間伐材搬出は、計画以上の実績を有し、一部地域において森林施策が進んでいます。</p>	<p>○コスト高などの外的要因により、農業者の経営が安定しません。</p> <p>○農林産物の付加価値向上については、特定の作目での産地化や加工の取組が進む一方、新規参入の停滞や販売から漏れる規格外品の活用などが課題となっています。</p> <p>○竹林整備においては、着手後の管理を地域が一体となって取り組む必要があることやその趣旨を十分に理解してもらうことができていないため、実施集落数が伸び悩んでいます。</p>	<p>○農業経営の基盤整備を促進するため、集落営農組織の法人化等を行い農地の保全と耕作放棄地の抑制を図ります。</p> <p>○地域で作られる農産物を使った新たな商品開発に農業者等と協働して取り組み、これを中心に据えたフルーツロード構想を地域政策として進めます。</p> <p>○果樹栽培等に関心を持つ就農希望者に向け、支援策等の情報発信を強化していきます。</p> <p>○地権者等へ森林経営管理制度の周知を図るとともに、森林組合等林業事業者と連携し、森林経営計画の策定を推進します。</p> <p>○森林環境譲与税を新たな財源として活用し、森林施策を促進していきます。</p>	2	活力があり、受け継がれる農林業の推進	
<p>○町民の地元消費を促すための町内店舗限定で使用できる地域通貨『たすカード』を導入しました。</p> <p>○物流や介護の職種等では人手不足が常態化しています。</p>	<p>○町内事業者限定で使用できる地域通貨『たすカード』の導入により、町民の地元消費意識の向上、町内事業者活性化への一助とすることができました。</p> <p>○コロナ禍には、町内事業者を積極的に支援し、事業継続を図ることができました。</p> <p>○しごとコンビニの導入により、町民の多様な働き方を支援し、事業者の働き方改革の支援にもつながっています。</p>	<p>○たすカード事業、しごとコンビニ事業に参画する町内事業者が増えていません。</p> <p>○町内企業で働く外国人の数は把握できていないものの、活動状況まで把握ができていません。</p> <p>○事業承継に関する支援制度や支援体制については、商工会等と連携して取り組んでいるものの、支援を必要とする町内事業者の現状把握が十分にできていません。</p>	<p>○たすカード事業の実施にあたっては、商工会、町内事業者等との連携を深め、また、利用者の意見を取り入れるなど、町民の生活に根付いたものとなるよう改善していきます。</p> <p>○雇用創出と労働力確保に取り組む町内企業等への支援を行います。特に、町内企業で働く外国人の方とも、地域の文化や習慣を理解し、互いに交流できるよう企業と協働した取組を推進します。</p> <p>○町の子どもたちや町とのつながりを持つ町外の人たちに、町内の企業や事業所、農家等で働く人たちと接する機会を積極的に提供していきます。</p>	3	活力ある産業で輝くまちづくり	
<p>○令和5年12月に「全国コミュニティ・スクール研究大会by鳥取県南部町」を開催し、町の教育分野における特徴的な取組を全国に向けて発信しました。</p> <p>○町民に十分浸透しているかという点、そうではありません。</p>	<p>○コミュニティ・スクールの取組により、子どもと地域、学校と地域というつながりができ、地域の学校運営への参画意識が高まっています。</p> <p>○令和6年度全国学力・学習状況調査において、『自分にはよいところがある』、『地域をよくするために何かしたい』などの項目で、町内小中学校の割合が県平均を上回っており、子どもたちの中に「まち未来科」での学びが醸成されています。</p>	<p>○コミュニティ・スクールの取組も町内全体に浸透できているとは言えず、取組の周知や学校運営協議会とCS委員会との関係性の再構築が求められています。</p> <p>○子ども一人ひとりが夢や希望をもてるよう、子どもたちに自己肯定感や自己有用感をより一層育むことが必要です。</p>	<p>○学校運営に地域住民等が参画する仕組みであるコミュニティ・スクールをより一層推進することにより、児童生徒・教職員・保護者・地域住民が協働して、子どもたちの学ぶ環境を充実させていきます。</p> <p>○子どもたちが「健全な心と体」、「確かな学力」、「学び続ける力」、「未来を生き抜く力」を育むため、地域及び関係各所と連携・協働していきます。</p>	4	心豊かな自律した子どもの育成	

南部町地域のあり方検討会（南部町総合計画後期基本計画より）

地域の現状・取り巻く環境	これまでの取組成果	課題・問題	今後の方向性	No.	総合計画における施策	備考
<p>○民間等では提供されにくい分野の事業を意図的に企画・立案・実施しています。</p> <p>○事業参加者から指導者へと、学習成果の循環をめざしています。</p>	<p>○ミカエル・セミナー等で人権学習推進委員や人権擁護委員等が人権の学びを深めることができており、人権を通じた地域づくり、交流懇談会等のつながりづくりに役立っています。</p>	<p>○個人の知識・意識の向上は見られるものの、主体的に仲間をけん引するには至らず、人権啓発の広がりが課題となっています。</p>	<p>○地域とともに取り組む保・小・中人権教育プログラムなどを通じて、お互いを認め合い大切にする人権学習を実践します。</p> <p>○家庭においても、日ごろから人権について話をする機会をもつことにつながるような取組を推進します。</p> <p>○地域振興協議会別の交流懇談会やミカエル・セミナー等の学びを通して、人権課題に気づき・考え・行動する仲間を増やし、お互いを認め合い、大切にする「人権感覚」をより身近なものにしていきます。</p>	5	人権が大黒柱のまちづくり	
<p>○民間等では提供されにくい分野の事業を意図的に企画・立案・実施しています。</p> <p>○事業参加者から指導者へと、学習成果の循環をめざしています。</p>	<p>○65歳以上の高齢者を中心に公民館等の活動が活発に行われ、学びを通じた生きがいづくり、仲間づくりが展開できています。</p> <p>○子どもたちの活動が、大人、若者たちの手によって意義ある内容になってきています。</p> <p>○自ら生涯学び、楽しむ場として図書館を利用される方が増えています。</p>	<p>○子育て・壮年世代、障がいのある方等の現状やニーズ把握、学習機会の提供が課題です。</p>	<p>○地域の特性や課題、多様な世代のニーズに応じた学習機会を提供し、町民の地域社会への参加・参画を推進します。</p> <p>○高校生サークルや青年団などの若者が、地域づくり活動を通じて仲間と協働できる地域リーダーに育っていけるよう、若者の取組を支援します。</p> <p>○地域を支え、町民の暮らしに役立つ図書館活動を推進します。</p>	6	生涯学習の推進	
<p>○町の自然や文化財を身近に感じることができ企画展、学習機会の創設等を図っています。</p> <p>○生涯スポーツを普及・促進し、町民の心身の健康増進に寄与しています。</p>	<p>○自然や歴史、文化、民俗など郷土の魅力をなんぶふれあい館等で、日常的に学ぶ機会を提供できています。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブとの協働により、様々なスポーツ活動を提供することができています。</p>	<p>○青少年の体力向上、障がいのある方のスポーツ活動への参加など多様なニーズに対応することができていません。</p>	<p>○町民が芸術文化に触れる機会を充実させ、自主的な芸術文化活動の推進を図ります。</p> <p>○里地里山の自然・郷土の歴史・文化を保存、継承することを通して、まちづくりや故郷への誇りを醸成することにつなげます。</p> <p>○地域・学校・総合型地域スポーツクラブが協働し、町民それぞれのライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。</p>	7	歴史・文化およびスポーツの振興	
<p>○少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など家族形態の多様化により、子どもや子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、子育ての不安感や負担感が増大しています。</p>	<p>○子育て世代を対象とした子育てアンケートの結果では、町独自の経済的子育て支援策の充実等を評価いただき、満足度が高いものとなっています。</p>	<p>○少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、家族形態の多様化により、子どもや子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、求められる施策の形態も複雑化しています。</p> <p>○子育て支援策は未就学児家庭を対象としたものが多く、小中高校生のための家庭以外での居場所や悩みを相談する窓口設置などの環境整備が必要です。</p>	<p>○安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠期から出産、子育て期と切れ目のない包括的な子育て相談支援窓口の充実を図ります。</p> <p>○地域の中で見守られている安心感を得ることができ、生き生きと子どもが育つ環境を整えます。</p> <p>○こどもの居場所を提供し、こどもの抱える悩みを取り除き、健全な成長ができる環境づくりを推進します。</p>	8	こどもが健やかに育つまちづくり	

南部町地域のあり方検討会（南部町総合計画後期基本計画より）

地域の現状・取り巻く環境	これまでの取組成果	課題・問題	今後の方向性	No.	総合計画における施策	備考
<p>○新型コロナウイルス感染症が広がり、さまざまな健康教育や集団での取り組みに制限がかかりました。</p> <p>○個人で取り組みができる、コツチャレについてはコロナの影響がなく、継続して行うことができます。</p>	<p>○コツチャレなんぶ（90日間の運動チャレンジ）は、毎年定員いっぱいの参加者（250名）があり、多くの町民が健康づくりに意識して取り組んでいることがうかがえます。</p> <p>○健診対象者が受診しやすいよう健診の環境を整え、一定の受診率が維持できています。</p> <p>○100歳体操についても、取り組む集落が年々増え、生涯健康づくりに取り組める環境が整備されてきています。</p>	<p>○コツチャレなんぶに限らず、運動習慣に取り組める環境を整える必要があります。</p> <p>○健診受診者が固定化しています。健診を受けていない方にも健診の必要性や受診勧奨などの働きかけが必要です。</p> <p>○100歳体操未実施集落の方でも参加しやすい体制づくりを整えていくことが必要です。</p>	<p>○町民一人ひとりに健康的な生活を身に付けてもらうため、65歳以上の高齢者向けの軽い運動や、継続的なウォーキング、塩分摂取量の指導など、町民の年齢や健康状態に合わせたアドバイス、サポートを行っています。</p> <p>○町民が健診を受けやすい環境づくりに努めるとともに広報を行います。</p> <p>○町民一人ひとりが気軽に健康づくりに参加できるよう、100歳体操などの事業をより多くの集落、公民館などで行っていきます。</p>	9	健康づくりの推進	
<p>○地域の生活や暮らしを守るため、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する「地域運営組織」が普及していません。</p> <p>○住民の生活課題が複雑化、多様化し、いろいろな制度にまたがっています。また、「制度の狭間」にも対応しなければなりません。</p>	<p>○地域福祉計画の策定にあたり、行政・福祉団体・地域代表等の関係者による話し合いができ、地域振興協議会におけるモデル地区事業を4か所で実施することができました。</p> <p>○支援を必要とする町民に対して福祉関係各機関が連携を取りながら、ケース対応、サービス提供ができています。</p>	<p>○町民の方や地域の福祉課題についての現状把握が十分にできていません。</p> <p>○町民の生活課題が複雑化、多様化しているため、様々な制度を組み合わせる等の対応が必要となっています。また、高齢者・障がい・子育て等の各制度だけでは対応が困難な複合化した課題の把握と対応も必要になっています。</p>	<p>○複雑化、多様化する福祉課題を把握し、対応できる体制の強化や地域住民及び関係団体等との連携・協働により、みんなが役割をもち、つながりあい、自分らしく活躍できる地域福祉を推進します。</p> <p>○介護・障がい・子ども・生活困窮などの様々なニーズに対応した相談体制を充実するとともに、支援を必要とする町民が、地域で孤立をしないための環境整備に様々な機関と協働して取り組みます。</p>	10	ともに支え合い元気に暮らすまちづくり	
<p>○インフラ施設の老朽化が進んでいます。</p> <p>○適切な維持管理や改修工事が重要ですが、同時に新しい技術や災害に強いインフラの整備なども求められています。</p> <p>○少子高齢化に伴い通学利用する子どもの数は減少傾向にある一方、利用する高齢者は増加傾向にあります。また、免許返納も促進されていることから今後も高齢者の公共交通利用は増加することが予想されます。</p>	<p>○老朽化が進むインフラ施設（道路・上下水道）は、長寿命化計画に基づき計画的更新、修繕を行い、その機能を維持しています。</p> <p>○AIデマンド交通システムを町営ふれあいバス運行エリア全域で導入し、乗降ポイントを277か所まで増加させたことにより、町民の利便性が向上しました。</p>	<p>○インフラ施設（道路・上下水道）の老朽化は一斉に進んでおり、その維持管理には多額の経費を要するようになってきました。また、人口減少にそなえた施設更新も今後の課題です。</p> <p>○町営ふれあいバスの仕組みが町民に浸透せず、その利用が一部の町民に限られています。</p>	<p>○町民が安心してインフラ施設（道路・上下水道）を利用できるよう、適正な点検、維持管理を行います。また長寿命化計画についても必要に応じた見直しを行い、施設の延命化を図り更新費用の削減に努めます。</p> <p>○公共交通利用者のニーズに対応できるように交通体系を見直すとともに、町内の様々な団体との協働により、町営ふれあいバスを中心とした持続可能な移動手段を提供していきます。</p> <p>○より多くの町民に公共交通を利用してもらうため、イベント等を企画・実施していきます。</p>	11	インフラを整え、安心を支える	
<p>○窓口による手続き、紙による申請、電話での相談がメインです。</p> <p>○デジタルツールの活用やセキュリティに関することなどのスキルや知識の格差が、町民の間でも見受けられます。</p>	<p>○町内全域に高速・大容量無線通信を行える光ファイバ網を敷設することにより、デジタル環境の基盤整備をすることができました。</p> <p>○テノヒラ役場（スマートフォンで行う行政手続き）の導入により、町からの情報発信が容易に行えるようになり、また、導入したコネクテッドカー（情報通信技術端末としての機能を有する自動車）が情報通信基盤が整備されていない場所に向き、町民に選挙の期日前投票を行っていただけるようになりました。</p> <p>○町民誰もが参加できるスマホ教室やスマホなんでも相談会を地域のあらゆる場所で開催したことで、多くの町民にスマートフォンの操作に慣れ親しんでもらうことができました。</p>	<p>○デジタル技術を活用した行政手続きは増えてきているものの、窓口での手続き・紙による申請・電話での相談が必要な行政手続きが数多く残っています。また、オンラインでできる行政手続きにも、一部、役場への来庁が必要なものがあります。</p> <p>○スマートフォンで行う行政手続きや町の情報入手などができない、またはこれを難しいと感じている町民もあり、何が支障になっているのかを把握して、対策を取っていくことが必要です。</p>	<p>○行政手続きのデジタル化・オンライン化を推進し、来庁しなくても手続き可能な環境を整備していきます。</p> <p>○町民誰もが、デジタル化のメリットを感じることができる機会をつくります。</p> <p>○デジタルに不慣れな方に対し、楽しくデジタルを学ぶ機会を提供します。</p>	12	デジタル技術でより便利な環境づくり	

南部町地域のあり方検討会（南部町総合計画後期基本計画より）

地域の現状・取り巻く環境	これまでの取組成果	課題・問題	今後の方向性	No.	総合計画における施策	備考
<p>○物価や電気代の高騰により、再生可能エネルギーへの関心が高まっています。</p> <p>○ごみ処理施設の建設に向けた協議が行われています。</p>	<p>○町関連施設への太陽光発電の積極的な導入、家庭用発電設備導入への支援により、町民の再生可能エネルギーへの関心が高まっています。</p> <p>○テノヒラ役場の機能を活用して、ごみ出しの日にちをお知らせするなどの取組により、適正なごみ処理が推進されています。</p> <p>○町民の環境に対する意識が高まり、ごみのリサイクル率は県の平均よりも高くなっています。</p>	<p>○家庭用・事業所用の発電設備に対する町の補助金はあるものの、利用件数が伸び悩んでいます。</p> <p>○家庭・事業所から出る可燃ごみは減少傾向ですが、さらなるごみの減量化・リサイクル率向上のために分別を徹底する必要があります。</p>	<p>○再生可能エネルギーの利用を促す取組を紹介するなど、広報に工夫を凝らしながら、家庭や事業所への発電設備の導入を進めます。</p> <p>○ごみを減らすために、不要なものを買わない・もらわない（R e f u s e ・リフューズ）、ごみの排出抑制に取り組む（R e d u c e ・リデュース）、使えなくなるまで繰り返し使う（R e u s e ・リユース）、分別を徹底し資源を再利用する（R e c y c l e ・リサイクル）の4 Rの普及啓発に取り組みます。</p>	13	環境にやさしいまちづくり	
<p>○人口減少や社会構造、ニーズの変化等により空き家が増加しています。</p> <p>○人口構成比における20代から40代の女性の割合が低い傾向がみられます。今後もこの傾向は、続くことが予想されます。ふるさとの良さを感じてUターンにつながるように、子どもや若者へ向けての事業を継続的に取り組む必要があります。</p> <p>○少子高齢化や若者世代の人口流出により地域の賑わいづくりの担い手が減少しています。また、参加する方、団体も高齢化や固定化している傾向が見られます。</p>	<p>○NPOと協働した空き家活用などの取組により、子育て世代等の移住が増加しています。</p> <p>○小中学生向けのごと講座を実施し、企業見学等町内企業の魅力を知ってもらうことができました。</p> <p>○地域振興協議会や地域再生を推進している法人等を主体として、地域の賑わいづくりにつながる様々な事業が実施されています。</p> <p>○都市部企業や大学等と協働して地域課題解決に取り組むことにより、関係人口が増えてきています。</p>	<p>○空き家の利用を希望する移住希望者のニーズに供給が追いつかず、入居待ちが常態化してしまっています。</p> <p>○子どもたちは、地域で活動する機会が少なくなり、地域との関わりが希薄になっています。</p> <p>○少子高齢化や若者世代の人口流出により地域の賑わいづくりの担い手が減少しています。</p>	<p>○田舎暮らし、就農・起業など多様な移住ニーズに対応できる受け入れ体制の整備に、庁内関係部署、関係団体、地域との連携・協働で取り組みます。</p> <p>○子どもの頃から地域活動やまちづくりへの参画を活発化させることで、地域住民との縁を深めます。</p> <p>○地域内外の多様な団体と継続した取組を行うことで、定期的な人の流れを生み出し、関係人口を増加させるとともに、地域内でのまちづくりの担い手育成につなげます。</p>	14	住み続けたいまちづくり	
<p>○季節を感じてもらおうようなイベントを開催し、観光客が町の里千里山の魅力に気づいてもらう機会を創出しています。</p> <p>○滞在交流型観光(農泊等)を進めていくために農泊体験に力を入れています。</p>	<p>○さくらまつりをはじめとする季節を感じられる様々なイベントには、町内外からの来場者が多く、リピーターをつくることできています。</p> <p>○農泊体験事業には、県外・国外からも多くの関心が寄せられ、関係人口、交流人口の創出につながっています。</p>	<p>○地域経済の活性化につながるような観光商品等の開発ができていません。</p> <p>○増加する外国人観光客の受け入れに向けた環境整備等の取組が進んでいません。</p> <p>○農泊体験事業のニーズに対し、これに取り組もうとする事業者等が増えていません。</p>	<p>○緑水湖周辺やとっとり花回廊、赤猪岩神社等、里地里山・神話等の資源を活かした観光の魅力ブラッシュアップし、サイクリングなどのスポーツツーリズムの環境整備を行いながら、新たな観光客の獲得をめざします。</p> <p>○インバウンド需要の獲得に向けた充実したメニューの提供や多言語対応等の環境整備、外国人向け観光モデルコースの開発に取り組みます。</p> <p>○農泊体験などの滞在交流型観光を推進し、周遊型観光では気づかない里地里山の魅力を体験してもらおうとともに、地域とのつながりが生まれることによる関係人口の創出へとつなげていきます。</p>	15	出合いが広がる観光のまちづくり	
<p>○近年、災害が多様化、激甚化（大雨・巨大地震）するとともに、発生件数も増加しています。</p> <p>○地域毎に防災訓練を実施しているが、防災意識、取り組みなど地域による温度差があります。</p> <p>○交通事故数は、全国的に減少していますが、特殊詐欺は新たな手口の詐欺が次々と出てきています。</p>	<p>○町民の防災意識の高まりにより、南部町内の防災士養成研修受講者数は45名となり、地域における防災訓練の指導者として中心的な存在となっています。</p> <p>○災害時要支援者支援事業（支え愛マップ）実施集落数は47集落（全集落の51.1%）となり、各集落内でどのような方がお住まいで、災害時にどう避難するか、誰が誰を助けるかといった対応を確認することができています。</p> <p>○交通安全キャンペーンを毎年4回開催することで、町民の交通安全に対する意識が高まっています。</p> <p>○消費生活相談専門員による相談を定期的に実施することで、町民が消費者としての相談を行うことができる体制を整備できています。</p>	<p>○近年、災害が多様化、激甚化（大雨・巨大地震）しており、多種多様な災害への備えが必要となっている一方で、過疎・高齢化により低下している地域防災力のさらなる向上が必要となっています。</p> <p>○防災訓練の実施や支え愛マップ等の整備により、地域での話し合いがなされている地域があるものの防災意識、取組などが十分でない地域も存在しています。</p> <p>○交通事故件数は減少傾向にあるものの、依然として65歳以上の高齢者の事故割合は高くなっています。</p> <p>○特殊詐欺や闇バイト等新たな手口の犯罪が次々と出てくるため、10代、20代の若者・65歳以上の高齢者を中心とした被害がなくなりません。</p>	<p>○『自助』『共助』及び『公助』の役割分担を明確にし、相互連携による総合的な防災力の強化を図ります。</p> <p>○町民が暮らす住まいの安全性向上について、住宅の耐震化を中心に企業等と連携を図りながら支援していきます。</p> <p>○町民が正しい交通マナーを実践し、習慣化することで交通事故のない町をめざします。</p> <p>○特殊詐欺等に対する啓発活動や、防犯灯の設置など、町民が犯罪にあわない地域づくりを関係機関と連携して推進します。</p>	16	自然災害や犯罪などからくらしを守る	

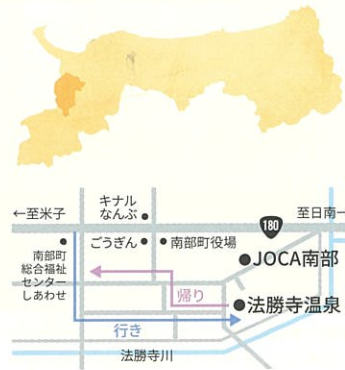
青年海外協力協会 南部事務所 (JOCA南部) の新たな取り組み

地域の人たちと一緒に飛躍する
ごちゃまぜの町、南部町

いとう たけかず
伊藤丈和 公益社団法人青年海外協力協会
南部事務所 (JOCA南部) 代表



派遣国：ブルキナファソ 職種：村落開発普及員
隊次：14年度1次隊 千葉県出身



JOCA南部の
これまでの取り組み

公益社団法人青年海外協力協会南部事務所 (以下「当会」) の伊藤と申します。当会は、2016年、南部町にJOCA南部事務所を設立しました。その後、2022年6月に法勝寺温泉がオープンし、法勝寺児童館の運営や、グループホームの建設、そして2024年4月には「子ども第三の居場所」事業の助成金を原資に、法勝寺温泉「別館」がスタートしました。

「日本をごちゃまぜに」の理念と
持続可能なまちづくり

南部町では全国のJOCAの拠点が大切にしている「日本をごちゃまぜにする」というコンセプトのもと、年齢や国籍、障がいや疾患の有無に関わらず、この地域に住む全ての人々が自然に関わり合い、お互いを支え合いながら生きていくまちづくりをしています。JOCA南部は、法勝寺温泉を拠点として、この「ごちゃまぜ」の理念に基づき、地域の人々が生きがいを感じ、幸せを感じられる場所となることを目指して毎日活動しています。

その他、地域と共に繋がり合うことを目標に、放課後児童クラブ、高齢者の見守りを兼ねた配食事業、障がい者を対象としたグループホームや就労支援事業などを展開しています。支える側と支えられる側という一方通行の関係をなくし、まさに「ごちゃまぜ」で持続可能なまちづくりを目指しています。

現在、法勝寺温泉を中心に複数の施設がありますが、まだまだ計画の半分程度です。今後はウェルネスを備えた健康増進拠点や新たなグループホームの建設を予定。これからも、南部町を元気に！を旗印にJOCA南部は地域の方々と歩みを進めていきます。

JICA海外協力隊派遣前の研修
「グローバルプログラム」

グローバルプログラムは、JICA海外協力隊として派遣される前の国内研修プログラムの一環で、約3か月間ほど、



JOCA南部・法勝寺温泉に多くの人が訪れる



2024年4月、法勝寺温泉別館 (子ども第三の居場所) オープン



NOTO, NOT ALONE Tシャツを着てJOCA南部から届け！我らの元気！

研修生として短期間地方に移住し、各所地域で生活し活動していきます。これは、仮想の開発途上国における生活を体験するものです。日本全国の自治体が抱える人口減少や高齢化など福祉に関する問題、地域の開発や文化の継承等の課題など持続可能な開発目標SDGsにも大きく関連したものを地域の方と協力しながら解決に取り組みます。今年度も南部町は候補生を受け入れ、空き家を改修した民家で生活を行い、研修生たちは地元住民と共に泣き笑い、そして共に学び合いながら活動しています。

南部町でグローバルプログラムを終えJICA海外協力隊の訓練所を卒業した候補生や、開発途上国で任期満了した後、帰国したJICA海外協力隊OBOGたちも、また南部町に戻ってきて、南部町を元気にしてくれています。

令和6年能登半島地震の支援

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震。当会は、現地の社会福法人佛子園と連携し、地震直後から支援活動を開始しました。JOCA職員は先遣隊を皮切りに、JOCA南部も発災後、直ぐに現地へ向けて職員がスクランブルに派遣され支援を行っています。また、JICA (独立行政法人国際協力機構)、OV会を中心としたJICA海外協力隊経験者、さらには、全国か

ら福祉関係団体や、東日本大震災を経験した方々に応援を頂き、フロントからバックヤードまで、支援に携わるボランティアは、これまで延べ9000名を超える方々にご協力を頂いています。現在は避難所から仮設へ。そして、コミュニティーセンターの開所へと計画を進めています。震災後、9月の奥能登豪雨という、更なる大変な災害を経験しましたが、能登半島を元気に！「NOTO, NOT ALONE」を合言葉として、一つ一つ、そして一步一步、復興へ向けた活動が続けられています。



震災直後の輪島の様子



能登町の仮設にて、被災者とのお茶会をしながらのワークショップ

2025年度 南部町地域のあり方検討委員会 第2回

検討テーマ：

南部町の「強み」

南部町の「弱み」

現状分析

S

Strength

W

Weakness

可能性分析

O

Opportunity

T

Threat

「強み」を伸ばし「弱み」を改善するためにできること

具体的に実行していくために検討すべき課題